

笹川科学研究助成に関する思い出

明治大学理工学部機械工学科 専任講師 石田祥子

■人生の転機と笹川科学研究助成

私は大学院修士課程を修了後、企業で研究者として働いていましたが、自分が目指す姿と現状のギャップに悩み、一から出直すつもりで大学に戻って研究員として働き始めました。当時の私は大学の研究者として必要な研究業績(学術論文や学会発表の実績)はほとんどなく、あるのは研究への情熱だけでした。企業での実務経験はあっても研究業績が乏しく、当時博士号を取得していなかったため、競争的研究資金を得るには非常に不利な立場でした。笹川科学研究助成を受けることが決まったのはちょうどその頃です。頂いた助成金で研究に必要な備品や材料をそろえ、研究成果を国内外の学会で発表、論文投稿を積極的に行いました。おかげさまで、貴重な研究成果を得、素晴らしい研究仲間にも恵まれ、現在は大学の教員として自分らしく働いています。

■私の考える笹川科学研究助成

笹川科学研究助成の素晴らしい点は、審査の段階で、研究業績の多さのみで応募者を一律に評価(足切り)せず、応募者の身分(学生、ポストドクター、教員等)や年齢、研究の独創性や新規性、そして応募者の将来性を総合的に評価されるころだと思います。私の例をとってみても、私の経歴を考慮し、「これまでに何をしたか？」よりも「この研究が将来発展するのではないか？」という可能性を評価してくださったのだと思っています。このような笹川科学研究助成の理念は、私のように紆余曲折を経て大学の研究者を志した研究者、ライフイベントや病気等でキャリアを一時中断した研究者、言葉の壁や文化の違いと戦いながら研究を続ける外国籍研究者等、不利な立場や環境にありながらも意欲を持って研究に励む研究者にとって優しい支援の手であり、30年近く前から継続されている先駆的な取り組みであると感じます。

■科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞して

若手科学者賞を受賞した私の研究は、大学に戻って研究者として第一歩を踏み出した頃からの研究成果をまとめたものです。当時は毎日必死にもがいていましたので、まさか将来このような名誉ある賞を受賞するとは思ってもみませんでした。小さな進歩を一步一步積み重ねたこと、あきらめなかったこと、先生や研究仲間に恵まれたこと、笹川科学研究助成のように自由に活動できる研究資金を得られたこと、様々な偶然が重なって幸運にも受賞できたのだと思います。チャンスは全ての人に平等に訪れるものではありませんし、何が次のチャンスにつながるかわかりません。後輩の若手研究者や研究者を目指す学生みなさんには、先が見えずつらい時期がやってきても、目の前の物事に一つ一つ大切に取り組み、チャンスをつかみ取る力に変えてほしいと思います。